

PETANQUE in TOCHIGI

ペタンク イン とちぎ 創刊号

栃木県ペタンク協会

編集発行
栃木県ペタンク協会

発行日
平成9年2月1日

印刷 (有)安野印刷
☎ 028 (658) 4 4 6 8

ペタンク創刊のご挨拶



栃木県ペタンク協会
会長 松本 光

「いつでも・どこでも・誰でも」手がけることができるスポーツとして、日本におけるペタンクは、ようやく成人の年頃となり、今では、北は北海道から南は沖縄まで、日本ペタンク協会主催による各種大会が四季を通じて開催されるまでに至った。

世界の長寿国となった我が国は、経済の安定成長による国民各層の余暇時間の増大と相まって、生涯スポーツの関心が高まってきた折柄、最も身近で手軽な新スポーツとして、全国的に注目されるようになったのではないだろうか。

ペタンクのルーツを調べていくと、紀元前数世紀のギリシャにたどりつくというほど、古い歴史を持ち、地中海の人々の間で脈々と続いてきたゲームと言われ、そしてペタンクという名称は「両足をそろえて」という意味のプロパン語「ピエ・タンケ」に由来しています。今では、国際的にもポピュラーなスポーツとして人口に膾炙されていることは誠に嬉しい限りです。さて、ペタンクが日本に入ってきたのはいつ頃かという点、これはかなり曖昧で、昭和三十年代にフランスに留学した日本人が現地でも覚えて日本へ用具を持ち帰ったとか、日本に定住していたフランス人によって紹介されたなど色々な説があります。

しかし、普及を目的としてわが国に採り入れようとした最初の日本人は、映画監督の伊丹十三氏であるというのが今では定説

になっています。昭和四十年代のはじめ、伊丹氏が主宰するペタンクの会には、もの珍しさもあって多くの芸能関係者の人たちが集まり、当時のマスコミを大いに賑わしたと言われます。

その後、伊丹氏の友人でペタンクの会にも入っておられた長興裕之氏がペタンクの将来を考え、普及活動と同時に事業としての発展も考え、昭和四十五年に日本ボンボール協会が設立されました。これが現在のペタンク協会の前身で、以後本格的な普及活動が行われるようになったわけです。

そして、二十有余年が経過し、日本におけるペタンク競技人口は飛躍的に増加し、都道府県単位三十一協会・市町村単位七十五協会その他クラブ等の組織が次々と結成されています。また栃木県ペタンク協会の指導的立場にある普及指導員は三百二十人を数えるに至り、県内各地で活躍され、その知名度も高まってきました。

現在では、日本選手権大会など全国規模の競技会をはじめ、都道府県・市町村単位支部協会では大小様々な大会が開催されており、



特に平成八年度中における、栃木県ペタンク協会傘下の支部・愛好会・クラブ等の各種大会には社長杯などの大型カップ争奪戦が展開され、大小十数回を数えるまでになりました。これほどになりますと、

当然のことながらペタンカー同志の交流や情報交換が必要となり、

こう言った皆様方の生の声を今後の栃木県ペタンク協会の機関紙に掲載し、紙上を通じて、さらに縦・横の交流を深め、その発展を期するため、ここに創刊号を発行することといたしました。

この度、創刊号の発行にあたり、ペタンク事業にご支援ご協力をくださった皆様方のご熱意にあらためて感謝申し上げますとともに、編集スタッフの方々には心から礼申し上げます。

これを機に、さらに多くの方々に「正しいルール・楽しいペタンク」を伝え、栃木県ペタンク協会としての役割を遂行いたします所存でございますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

祝・創刊

日本ペタンク協会
理事長 山崎 勝

機関紙の創刊を心からお祝い申し上げます。いま、ペタンクは沢山ある生涯スポーツの中で真のみんなのスポーツ、即ち、どこでも、だれでも一緒にできるスポーツとして、急速に全国に広まりつつあります。ペタンクの持つ豊かなゲーム性がプレー

